



子どもは大人の鏡

校長 神田 朋恵

休日に流れたPTA役員再募集のお知らせは多くの保護者の心に届き、結果的に、定員以上の皆様にお集まりいただけることになりました。今年度最初の授業参観・懇談会では、それぞれ90%、74.9%の保護者の皆様に御参加いただきました。“子どもたちのために”という熱い想い、ありがとうございます。心より感謝いたします。ポストコロナの中、懇談会一つをとってみても、我々も方法を見直し、皆様に参加してよかったと何かしらお土産を持ち帰っていただけるよう、今後も工夫してまいります。さて、次の詩を御存知の方も多と思います。

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる
(ドロシー・ロー・ノルト 石井 千春訳『子は親の鏡』より)



この詩を初めて読んだのは教師になってからでした。以来「(学級の)児童は教師(担任)の鏡」と思って自分自身を戒めてきました。地域で言うなら「子どもは大人の鏡」といったところでしょうか。

4月、子どもたちをとっても愛おしく思える場面がたくさんありました。目を見て自分から挨拶する姿、勇気を出してチャレンジしようとする姿、新しい友達と仲良くしようとする姿、教師の話を一言も聞き漏らすまいと集中する姿、上級生が下級生をいたわり手伝う姿、などなど。保護者、地域の皆様が大切に慈しんで育ててくださっているのが伝わってきます。この子どもたちの温かさ、優しさを学校というフィルターを通すことで、もっと広くもっと深めていきたいと強く思った次第です。

目の前にGW、そして5月は50周年記念大運動会があります。今月もよろしく願いいたします。